

イシサンゴの不思議と魅力



△イシサンゴの見た目は植物のようだが、れっきとした動物で、クラゲやイソギンチャクの親類になる。ただ、岩などにしっかりと固着しているため、サンゴ水槽には数十種の地元産を飼育展示している。中央がミドリイシサンゴ (水槽番号201)

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

2

深見 裕伸

さんご礁と言えば、透き通った水に色とりどりの熱帯魚が泳ぎ回る南国のイメージだが、実は田辺湾周辺でも70種以上のサンゴが生息している。

田辺湾の湾口付近にある沖ノ島周辺では、数百年におよぶイシサンゴの大群落がある。この大群

田辺湾周辺にも生息

落は、主にテーパー状のミドリイシサンゴと呼ばれる種類を中心に構成されている。テーパー状サンゴの大群落としては本州最北となり、科学的にも観光資源としても貴重

め、自分で移動することはできない。イシサンゴの興味深いところは、多くの種類でその体内に藻類(共生藻)を飼っているところである。全体が茶色く見える

なものとなっている。

イシサンゴの見た目は

植物のようだが、れっきとした動物で、クラゲやイソギンチャクの親類になる。ただ、岩などにしっかりと固着しているた

のは、この藻類が非常にたくさんいるためだ。共生藻は、陸上の植物と同様に太陽光を浴びることで栄養分を作り、それをイシサンゴに分け与えている。そのため、イシサンゴは自ら餌を捕る必要がほとんどない。その半面、太陽光が当たらないと死んでしまう。このように、イシサンゴは動物でありながら、形も

生活も植物に類似した奇妙な生き物なのである。沖縄では5〜6月の満月のころに何十種というイシサンゴが一斉に産卵する現象が知られている。この一斉産卵は田辺湾でも観察することができ。時期は少し遅れて7〜8月である。時間は午後9時すぎから10時ごろまで。ただ、沖縄と違い、いつ産卵するかはつきりしていない。目にするには夜な夜な海に潜るか、幸運が必要になる。

白浜水族館では、田辺湾や白浜町周辺のイシサンゴを数十種類展示している。しかし、岩のように見えるのか、よく素通りされてしまう。この機会に、この貴重で不思議な田辺湾のイシサンゴをじっくり観察するのも面白いだろう。

(京都大学助教)